

自主防災組織に参加しましょう

自主防災組織とは、「自分たちの地域は自分たちで守る」という意識のもと、自主的に連携して防災活動を行う組織です。市では町内会などを中心に結成されています。お住まいの地域に自主防災組織があれば、積極的に活動に参加し、地域で防災活動に取り組みましょう。

自助・共助・公助

自助：自分の身は自分で守る

共助：自分たちの地域は自分たちで守る

公助：行政など公的機関による対応

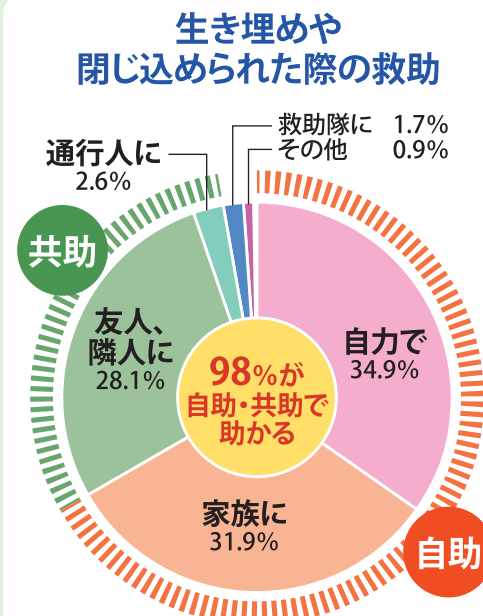


「自助」「共助」「公助」という言葉があります。災害の被害を最小限に抑えるためには、自助・共助・公助それぞれの取り組みが連携し、災害への対応力を高めていくことが大切です。

大規模災害時において、公助だけでは限界があり、自助・共助による取り組みが必要になります。

阪神・淡路大震災では、生き埋められた方、建物・家具に閉じ込められた方のうち、自力で脱出した方と、家族や友人、隣人などに救助してもらった方の割合は98%におよびます。

これは救助対象者数や、交通障害の増大により救急隊員などによる救援を受けるのが難しく、隣近所など被災者同士で助け合わなければならない状況であったことを表しています。



(財)日本火災学会：「1995年兵庫県南部地震における火災に関する調査報告書」より

自主防災組織の活動例

日常の活動

- 防災研修会の開催
- 災害による被害を防ぐための活動（地域の危険箇所の把握等）
- 防災訓練（災害時の活動の習得）
- 地域防災情報紙の発行 など



災害時の活動

- 初期消火や救出・救護
- 避難誘導
- 避難場所での給食・給水等の活動 など



地域で助け合いましょう

いざという時は助け合いましょう

お年寄り、子ども、障がい者、外国人などは、災害時に避難の行動が遅れがちになります。災害時に手助けが必要な人（避難行動要支援者）を災害から守るために、地域で協力しあいながら支援していきましょう。

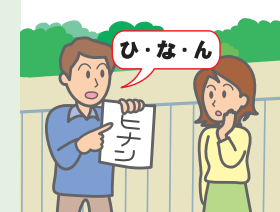
肢体が不自由な人



支援者の人は

- 階段では、2人以上が必要。上りは前向き、下りは後ろ向きにして移動する。

耳が不自由な人



支援者の人は

- 口をハッキリと開け、相手にわかりやすいように話す。
- 手話、筆談、身振りなどの方法で正確な情報を伝える。

目が不自由な人



支援者の人は

- 災害時には、声をかけ情報を伝える。
- 誘導する場合は、支援者のひじのあたりを軽く持ってもらい半歩前をゆっくり歩く。

外国人

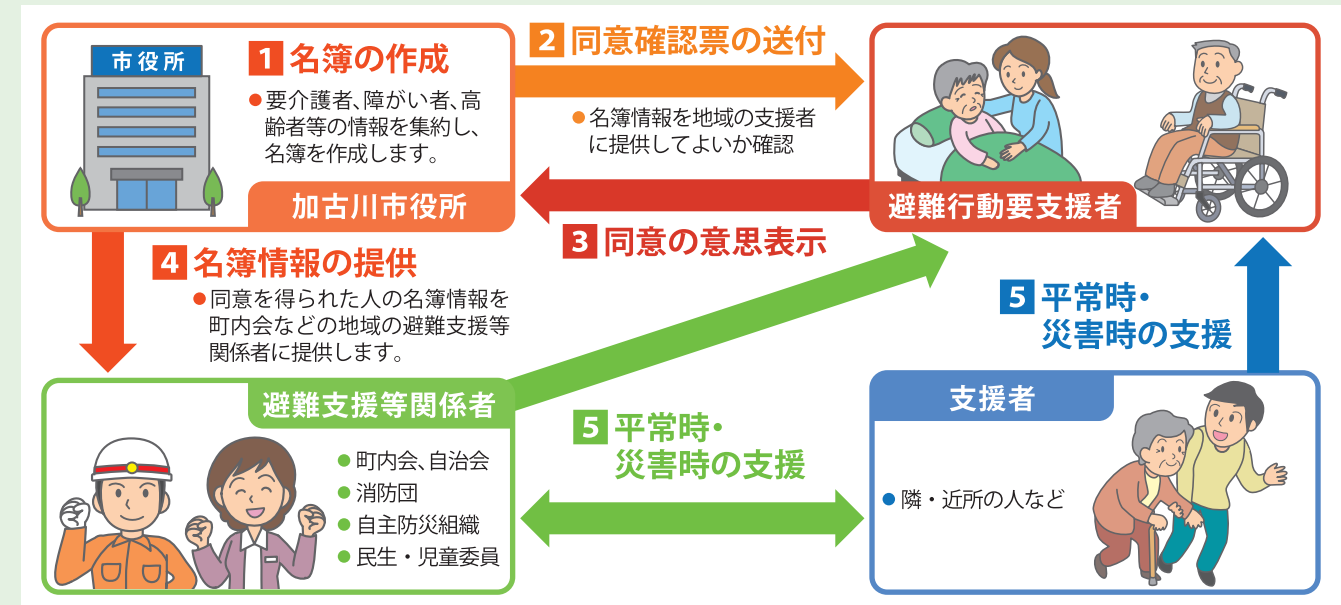


支援者の人は

- 身振りや手振りで話しかけ、孤立しないようにする。

避難行動要支援者の支援について

市では、高齢者や障がい者など、災害時に支援が必要と思われる人について、「避難行動要支援者名簿」を作成しています。この制度は、避難時の誘導や補助などの支援を希望する人が、名簿に登録された情報を町内会などの地域の避難支援等関係者へ提供することについて同意することで、日頃からの見守りや災害時の安否確認、避難誘導などに役立てるものです。



防災対策課や地域福祉課、障がい者支援課、介護保険課、市民センターの窓口で申請してください。外出が困難な人は郵便でも申請できますので、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

問い合わせ先

- 防災対策課
- 地域福祉課

電話：427-9717 FAX：427-3623
電話：427-9205 FAX：421-2063